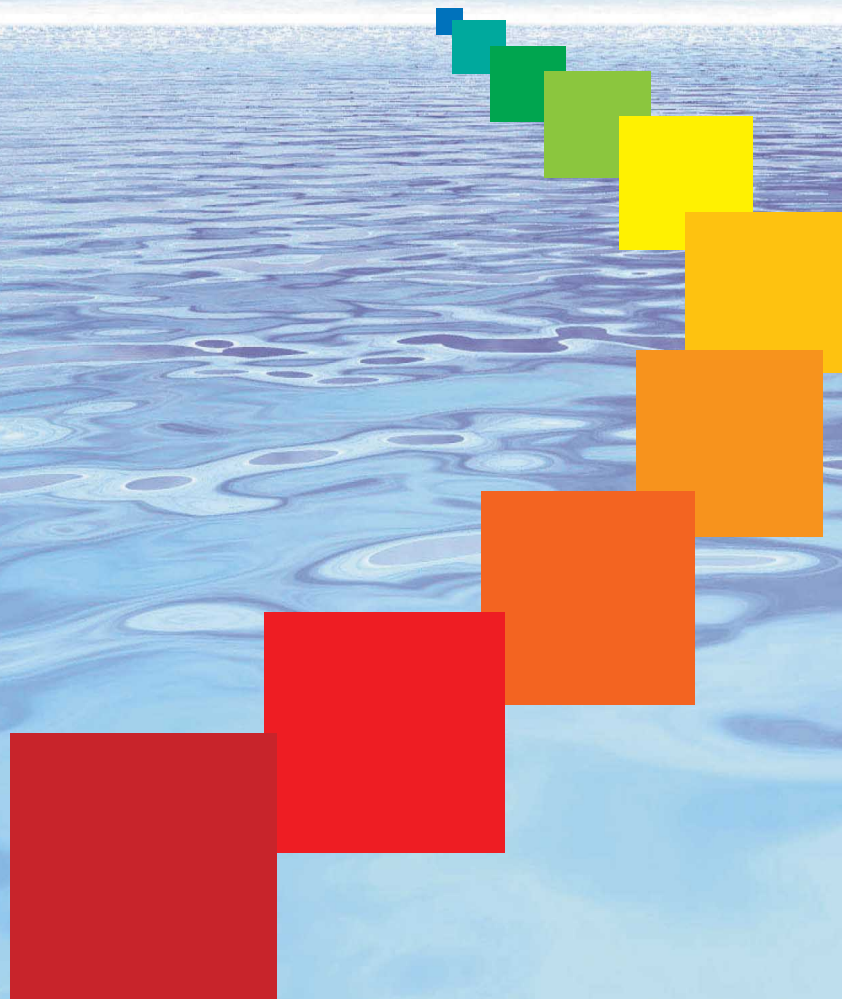


鹿大広報

No.155

Feb/2001

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会



特集：“新しい世紀へ”

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

Kagoshima University
鹿大広報

【Feb.2001 No.155】

目次

特集 新しい世紀へ

21世紀の門出を祝して.....学 長 田中 弘允..... 3

卒業・修了にあたって..... 4

下境田 純子(法文) 大坪 加代(法文・院) 下園 友紀(教育)
舞田 敏彦(教育・院) 新里 龍治(理) 福島 大輔(理工・院)
米澤 智一(医) 谷 淳至(医・院) 三輪 容子(歯)
Vincent Paul Rosales(歯・院) 竹内 美絵(工)
木村 克成(農) 前村 記代(農・院) 内 明子(水産)
小濱 美奈子(水産・院) 松下 耕三(連大) 有川 譲二(医短)
木上 明子(医短) 張 爾(医) Moe Moe Aye(医・院)

退官にあたって..... 9

松田 健一(教育) 堀田 満(理) 金田 信(理)
野井倉 武憲(歯) 前田 明夫(工) 林 理三雄(工)
古川 純康(工) 清水 孜(農) 吉良 今朝芳(農)
林 満(農) 佐藤 守(水) 富永 慎吾(事務局)
岩尾 忠春(医) 松下 鐵郎(事務局) 福地 尚武(教)
大園 健三(工) 竹下 禮躋(水) 吉満 榮(事務局)
小平 年弘(農)

特別寄稿

石窪 奈穂美(鹿児島大学運営諮問会議委員)..... 14

学内だより

21世紀を迎えて.....田中 弘允..... 16

随 想...噴煙と火山ガスを追う.....教育学部...木下 紀正..... 19

留学生センターの発足と課題.....留学生センター長...土田 充義..... 20

留学生日記.....黄 茉莉・レマ・カロリーナ..... 21

SCS利用案内

研究室紹介...農学部 食品機能化学講座 藤井 信、侯 徳興、井上祐一..... 22

水産学部 漁業基礎工学講座 松岡達郎..... 22

寄附講座(京セラ経営学講座)..... 23

サークル紹介...ジャズバンド部、サッカー部、剣道部、石笑会..... 24

新任教官紹介..... 26

保 健...神経症(ノイローゼ)...保健管理センター助教授...森岡 洋史..... 28

図書館だより..... 29

行事予定..... 30

編集後記..... 30

表紙デザイン

20世紀から21世紀へ、新しい世紀へ向けての期待と希望を色と形で表現した。

教育学部 助教授 美術教育講座 小江 和樹

特集 新しい世紀へ



21世紀の門出を祝して

学 長 田中 弘允

卒業生の皆様、蛍雪の功なつてここにめでたく卒業されますことを心からお喜び申し上げます。

皆様は、鹿児島大学で学部学生としてあるいは大学院生として知識と技術を習得し、研究を達成され、また幅広い教養と豊かな人間性を持つ1人の人間に成長されました。そして、本日から、21世紀が始まったばかりの社会に参加されます。

私たちの住んでいる社会は、科学技術の進歩によってもたらされた豊かな物質文明社会ですが、様々な課題の解決が必要な社会でもあります。地球環境破壊、食糧の量的あるいは質的欠乏、人口の少子高齢化、人間性やモラルの欠如などがあげられますが、これらの地球的・社会的課題の解決には、国民や全人類の協力が必要であります。環境問題の解決に向けてバーバラ・ウォードが述べた「Think globally, act locally」がその他の課題の場合にも当てはまります。1人の地球人として高い視野に立ちつつ、日常生活の中で考え、できることから実行することが今求められています。皆様は、本学で人生の貴重な時期を過ごし、知識や考えることを学び、すばらしい教官・友人との出会いをもったのであります。皆様が学んだ本学が、地域に根ざした大学、南へ開かれた大学、8学部8研究科を有する総合大学であることを改めて想起するとともに、鹿児島の地がすばらしい自然に恵まれていること、またわが国の歴史上重要な役割を果たしてきたこと、特に近代日本の幕開けとなった明治維新の原動力となったことの意味を考えて欲しいと思います。そして、これらすべてのことを誇りにし、自らのアイデンティティを明確にする作業を本日ここで行うことをお勧めします。

21世紀社会は、歴史の大きなうねりの中にあつて激しく変化する社会であり、そこに参加する人々は自らのアイデンティティを明確に持つことが、意義ある人生のために極めて重要となります。新世紀を担う皆様にすばらしい社会づくり

を心から期待いたします。

退官される教職員の皆様、20世紀という極めて激動の時代を共に生き、努力し、難局を乗り越えてこられましたことに心から敬意を表します。

皆様におかれましては、情熱や愛情、深い経験を通して鹿児島大学の発展に寄与してこられましたことに心から敬意と感謝を捧げます。

昭和24年の創設以来、教育・研究組織の充実、カリキュラム等教育の改善充実、学術研究の高度化・多様化等が実行され、今や本学は全国有数の総合大学としてなくてはならない存在になっています。この間卒業生は、学部学生61,231名、大学院生5,789名、合計67,020名に達しており、世界中でめざましい活躍をされておられ、私どもに大きな勇気を与えています。社会的課題の解決を目指した全学合同研究プロジェクトや産学官連携も進展しており、高い評価を受けるに至りました。また、世界最先端の研究や地域に密着したきめ細かい研究など多様な研究が結実し、豊富な成果は人類の知の創造に大きく貢献しました。国際化も大いに進み、留学生の卒業生は1,488名を数え、国際交流協定を32大学と締結しています。

これらの成果は、皆様方の並々ならぬ御努力の賜であり、ここに鹿児島大学を代表して心から御礼申し上げます。

いよいよ21世紀に入り、私どもは今世紀の行方を決める重要な役割を担うことになりました。21世紀の高等教育、学術研究はいかにあるべきか、鹿児島大学の使命は何かを常に検証しつつ前進しなければならぬと決意を新たにしています。

皆様におかれましては、どうぞ心身共に健康やかに第二の人生を過ごされますようお願い申し上げます。高齢化が進んでいるわが国におきましては、定年で退官される皆様は、気力、体力、知力共に充分若さを保っておられます。様々な立場や切り口から社会のために、また鹿児島大学のために今後とも御尽力下さいますようお願い申し上げます。

卒業・修了にあたって



卒業にあたって

法学部 法政策学科 下境田 純子

私が入学した当時、世間ではレジャーランドやモラトリアムといった大学生活を皮肉った表現が盛んに用いられていた。

「デタラメもいいところ」これが実際に4年間の大学生活を送った上で出したモラトリアム説に対する答えである。確かにそれまでに比べると時間はたくさんあった。そのおかげで私はそれまで見て見ぬふりをしていた「自分の確立」をせざるを得なくなった。それは決して楽しいことばかりではなく目指す自分と現実の自分との間で考え、悩み、友人と朝まで語り明かしたことも度々あった。

その結果得たもの、大学生活の一番の収穫は目指す自分をはっきり確認できたこと、そのスタートラインに立つことが出来たことである。そして人との出会いとその関わり次第で変わっていく自分を再認識出来たことである。

4年間お世話になった方々や多くの友達、そして何より私を支え続けてくれた家族への感謝の気持ちを忘れずに、これから忙しい日々を送りたい。



ここで見つけたもの

人文社会科学部 大坪 加代

早いもので、もう6年間、鹿児島大学に通ったことになる。そして今、私は卒業しようとしている。気づけば小学校と

同じ期間、ここで学んだことになる。小学校の6年間ほど、すがたかたちは変わってはいないけれど、好きなことを見つけたというのは自分のなかで大きな成果である。インドネシアのバリ島と出会ってから、それだけを追求してきた。バリ島に関する本を読んだり、旅行で行ったことのある友達から話を聞いたことからはじまって、興味を惹かれる方向に進んできた。見てみたいと思うものがあれば、時間とお金の許す限り行ってみた。社会に出たら、こんなにやりたいことをやりたいときにはできないだろう。

新しい世紀に、どんな出来事が待っているかわからないけれど、ここにいた6年間に会った人と見つけたものを大切に、歩いていきたい。



大学生活を振り返って

教育学部 生涯教育総合課程 下園 友紀

大学生活の中で最も印象深いことは、生涯教育を学んだことです。この生涯教育は、私達にこれからの社会の中でひとりひとりが生きる力を養う必要があるという考えに基づいています。「その実践のためには何が必要であるか」を問う教育だと私は思います。

正直、入学当初は生涯教育や国際理解教育の意義を考えたこともありませんでした。しかし、大学1年時の与論体験実習、2年時の香港からの留学生との交流、4年間を通しての「地球市民教育ネットワーク鹿児島」のイベントの手伝いなど、これらによって、自然にその意義について考えるようになりました。

この4年間、さまざまな活動が私の視野を何十倍にも広げてくれました。学生時代に体験する活動は必ず自分を成長させてくれると思います。やって無駄なことなどないのです。自分をもっともっと成長させていきましょう。



文学百姓

教育学研究科 舞田 敏彦

本研究科に入学してはや2年、修了の時期となりました。さて、この2年間で何が得られたのだろうか。この問いは意外に難しい。「教育投資が有能な人材を産む」という人的資本論の定理に従えば、大学院卒の人材が最も生産性に優れていることになるが、事実、必ずしもそうではない。自分自身に照らしても、特別な職業技術を身につけたわけではないし、一般に想定される職業（教員）に就くでもない。他の院生も8割方そうだろう。しかし、このようなミスマッチ現象を善悪のレベルで議論するのはあまりにも空しい。高等教育レベルの学習に狭い目標を押し付けるのは無理がある。各個人がそこで知的世界を垣間見、己の内面を充実させればよい。大学院でフランス文学を修めた青年が百姓になり、田植えの合間にバルザックを読む・・・この種の文学百姓が増えない限り、真の学習社会の到来は遠い。大学において、功利的動機抜きの知的活動がより一層充実してほしいと思います。



先端テクノロジーについて

理学部 生命化学科 新里 龍治

最近岩波新書の柴田鉄治の『科学事件』という本を読んだ。20世紀後半に次々と

社会に導入されてきた科学。一見なんの抵抗もなくスムーズに入ってきたように見えて実はそうではない。そこには多かれ少なかれ必ず摩擦が生じ、事件が起こっていると言う。原子力、クローン、体外受精、遺伝子組換え...など。社会を騒がせた先端テクノロジー。

著者は、21世紀には全く予想だにできないような科学事件が起こってくる。その時どうすればよいのか??まずやることは、過去に学ぶ事である。

科学事件をきちんと検証して今後の教訓にしるという。まさにその通りだと思う。先端テクノロジーは過去の経験と教訓から生まれてくるのだから。



大学で学ぶこと

理工学研究科 福島 大輔

私が大学・大学院で学んだことの中で最も重要なことは、高度な専門知識ではなく、「物事を理論的に考え、問題を解決

していくノウハウ」です。知識を学ぶだけなら高校と大して変わりません。大学が高校と違う点は、「物事の本質を捉え、適切に処理する能力」を養う点にあると思います。私がそれを身につけることができたのは、大学院の環境のおかげです。そんなことは大学の4年間で学べそうな気がしますが、現在の大学教育では難しいと思うのです。学部の教育のほとんどは知識を教えることだけです。卒論は物事を理論的に考えるための重要な教育ですが、必修ではない学部・学科もあります。ですから、大学にはもっと授業や卒論指導を通して「理論的に考え、新たに道を切り開く能力」を身につけられるような教育をして欲しいし、学生にはそれを自ら学び取るうとする気力を持って欲しいと思います。それが大学で学ぶべき最も重要なことだと私は考えます。



黒船来航そして新たな航海へ

医学部 医学科 米澤 智一

衣食足りて礼節を知るという言葉があるように、がむしゃらに走る時代は終わりました。医療の世界でも「QOL / 楽しく生きる」という考え方が強く意識されています。ただ長生きすればいいという考え方は、お医者様という言葉と共にはや通用しません。先輩方が良かれと思い築きあげてきた聖域に、患者さん初め社会が乗り込んできたといった印象です。歴史薫る薩摩風に言うなら“黒船来航”といった感じです。マスコミを初めとして過剰ともいえる程、医学界を攻撃している現状を医学的に例えると急性炎症期といった所でしょうか。しかし、21世紀はこの偏った状態を治療し、社会と共に新しい価値観を作り上げていく時代であると言い換えられます。

21世紀の医者として、幸せに生きるとは何かという航海に出られて幸せです。

医師国家試験の合格をめざして頑張ります。



大学院を修了するに当たって

医学研究科 谷 淳至

私は、大学院医学研究科を無事に修了することができました。これはもちろん私一人によるものではなく、常に御指導して下さった恩師である中條政敬先生（医学部放射線医学教室教授）を始め多くの先輩・同僚・後輩等の惜しみない協力があって達成されたものであることを、改めて感じています。

さて、大学院生にとって学位取得は大きな目標であります。修了するに当たって私が気付いたことがあります。日常に忙殺されて忘れていたのかもしれませんが、学位取得が最終の目標ではない、ということです。目に見える形での成果を残すまでの過程で得られた知識や技能、換言すれば研究者としての態度とも呼べるかもしれませんが、これらがむしろ重要である気がします。研究者としては依然として未熟ではありますが、継続して努力していきたいと現在は考えています。私にとっては、大学院修了は新たな出発の時です。

私の目標



歯学部 歯学科 三輪 容子

私は6年前鹿児島大学歯学部に入學し初めて鹿児島に暮らし始めました。しばらくして梅雨の季節になり教室移動の時

スクールに逢いました。痛い位の勢いの雨にうたれ、竹ぼうきのような大きなフェニックスの落ち葉をまたぎこえ目的の教室にたどり着いた時ひしひしと南国を実感しました。ところでそのころは歯学部に入って人の役にたつ仕事がしたいと思っていました。しかし今は世の中にはこれをすれば人の役に立つという特別な職業はなく、自分の知識、技術を思いやりの気持ちで人に使って初めて人の役に立つことができるものなのだと思えるようになりました。私の卒業後の目標は、この6年間歯学部で得た知識や経験を少しでも周りの人に還元することです。その為毎日出会う人を大事にして自分から相手に思いやりをもって接するようにしていきたいと思

HOPE



歯学研究科 Vincent Paul Rosales

It has been 5 years since I left Philippines and came to Japan to pursue a post graduate study. Studying in Japan proved to be tough aside from the fact that language

barrier and culture differences exist. However, I am very thankful to my professor and the rest of clinical staff in my department(Orthodontics) for their patience and support throughout the years of my study here in Kagoshima University that truly made my research possible.

My hope for this new century is that by the time I return back to Philippines, I would be able to promote collaborative research between a Philippine university and Kagoshima university basically by networking. I believe that with the help of new technology such as the internet, research communication between Japan and Philippines will become more progressive. To improve some of the Philippines' dental knowledge, apparatus and techniques, I would like to introduce Japan's advanced dental technology that I have learned or was exposed to. Lastly, I hope that I will be able to contribute the knowledge that I learned in orthodontics to my dental colleagues in Philippines.

鹿児島へ来て...



工学部 建築学科 竹内 美絵

4年前、私は友達も知り合いもない鹿児島にはるばる岡山からやって来た。聞き慣れない方言と桜島の灰に戸惑いな

がら、私の大学生活はスタートした。思い描いていた大学生活とはちょっと違っていたけど、尊敬できる人から変な人まで、いろんな人との出会いがあった。その出会いの中で、自分の良い所も悪い所も見えてきて、少しは成長できたと思う。

なんとか大学4年間を終えて、これからは甘えの効かない社会に出ることになる。しかし、私はあと1年、親のすねをかじってカナダへ語学留学をする。語学だけの留学で、いろんな人からその後の心配をされるが、自分で考えて決めた事だからこれで良い。後で苦労するのも自分なんだから、突き進むのみである。

きっとこれからも今まで以上にいろんな人に出会う。その出会いの中で、自分を成長させ、一度しかない人生を満喫したいと思う。

クラブ活動の思い出



農学部 獣医学科 木村 克成

私は、鹿児島大学に入學してすぐにウインドサーフィン部に入部しました。最初は、鹿児島に来たからにはマリンスポーツを始めようという軽い気持ちで入部

しようと思ったのですが、実際には凄いい体育会系のサークルでした。特に、コンパでの体育会系ぶりは凄く、1年生の頃は先輩と話すのもドキドキしていました。そんな私も、学年が上がるに連れて、後輩を叱ったりしていると、いつの間にか怖い先輩だと言われるようになっていました。しかし、このようにして先輩から後輩へ色々な事が伝えられていく事を感じました。また、そんな体育会系のウインドサーフィン部に入ったからこそ、色々な相談にのってもらえる先輩達、語り合える後輩達などの大切な仲間を持ってました。最近の若者は、人と接する事が苦手になっていると言われます。が、接する友人によって人は変わっていくと思います。だからウインドサーフィン部のそのような良い部分は変わらないで欲しいと思います。21世紀を迎え「最近の若者は...」と、私も言う時が来るかもしれません。しかし、今の気持ちを忘れずに、いつまでも色々な話を熱く語り合える仲間を持ち続けたいと思います。

最後にSha 6年間ありがとう。

大学生活

農学研究科 前村 記代



私が鹿児島大学の門を叩いてから、早6年という年月が過ぎようとしています。私は大学入学当初、好きな講義を選べたり、社会を垣間見ることができるアルバイトなど、高校時代とは違う自由に浮き足立っていました。そして大学生生活が2年過ぎ、専門に上がり大学進学 of 動機を思い出し、また社会へ出る緊張を感じ始め、勉学に重きを置く生活を始めました。しかし時間が過ぎるのは早く、就職活動の時期を迎え、自分を見詰め直しました。その時自分に自信を持って言えることがないことに気付き、大学院に進学することを決意しました。そして今、卒業を目の前にし、大学生活とは何だったのかと考えた時、自分を見詰め育てる時間のような思いでいます。なぜなら大学進学までは、敷かれたレールの上を走っていましたが、社会へ出てからは自分で道を切り開かねばならず、また、学生とは全く違う社会人としての責任という二文字が重く申し掛かってくるからです。私はこれから社会へ出るわけですが、大学生活で培った知識と知恵を糧に社会人として頑張っていこうと思います。

卒業するにあたって

水産学部 水産学科 内 明子



人にとって、自分自身の存在を感じながら生きていけることは幸せなことだと思います。そのためには、常なる前進とそれを実践する勇気が必要だと思います。学生時代というのは、例えば、10やりたいことがあれば10すべてにトライしてみれば良いと思います。いろいろな障害があっても、好きなやりたいことがあれば勇気をもってトライしていく。この勇気がなければ生きがいは見つからないと思います。大学という場はその生きがいを見つけるのに最適どころだと思います。在学中のオーストラリアへの3年間の留学は、私のかなり大きなトライのひとつでした。

私は水産学部在学中に、自分の人生の可能性をしっかりと見据える勇気と、人は人、自分は自分という考え方で、自分なりの人生を作ってゆくという楽しみを持つことができました。

いま卒業するにあたり、これからさらに違った世界での自分の生き方に胸躍らせています。

水産学研究科 小濱 美奈子



新世紀の幕開けに、大学院修了を穏やかで、充実した気持ちで迎えらるることを経済的、精神的に支えてくれた家族、苦楽を共に過ごした友人、修論を指導して下さった教官方に感謝します。

21世紀、地球の温暖化などの異常気象や乱獲による海洋の生態系の乱れ、また、海洋汚染などの大きな問題を抱えています。水産業も、獲る漁業からつくる漁業の転換を迫られています。しかし、一方で、幼いころ遊んだ錦江湾の海湯海水浴場も、今では都市排水や養殖場からの廃液などの影響が、若干汚くなったような気がします。そこで、大学6年間、修了後も、幸いにも水産業に携わる一人として、将来は、世界の養殖現場の最先端で、自然にやさしい環境問題を重視した“海拓”に、研鑽を重ねていきたいと思ひます。

また、その中で、学生時代に得た人の気持ちを思いやる、前向きに物事を考える姿勢（Don't worry be happy）感謝の気持ちを忘れないということを買いていきたいです。

連大で学んだこと

連合農学研究科 松下 耕三



連大は、学生の半分以上は留学生であり、年齢や専門も多様な個性豊かな人たちが集まっている。私は、他大学の理学部を修士課程まで終え、民間の会社で働いた後、平成10年に入学した。この時すでに三十路目前だったので、さすがに一番年上だろうと思っていたら、同じ研究室でも、同期の中国人留学生の某さんは2つ上、2年後輩のインドネシア出身の某君も4つ上、1学年上の某先輩に至っては教授より年上だった。入学時、会社も辞めてしまっ先行きの見えない研究生生活に入るにはそれなりの不安もあった。しかし、大学では様々なバックグラウンドをもった人たちがいて、すこしくらい常識からはみ出した方が面白いということがよく分かった。この3年間の一番の財産は、よき人たちに出会えたことである。興味ある研究テーマにも巡り会えた。卒業後は就農し、自分なりに“これからの日本の農業”を模索していこうと思っている。また、連大で学んだことを糧とし、今後も個人的に研究を続け、さらに面白いテーマ、楽しい人たちと巡り会いたい。



3年間をふり返って

医療技術短期大学部 理学療法学科 有川 譲二

3年前の春に僕は理学療法士になるために19人のクラスメイトと共に鹿児島大学の医療技術短期大学部理学療法学科に入学しました。

この3年間をふり返ってみると多くの人達との出会いがありました。それは、先生方との出会いであり、クラスメイト達、先輩、そして後輩達。その人達のおかげで僕は、笑いながら楽しい日々を過ごすことが出来ました。そして、その出会いを通していろいろな面で成長することが出来たのではないかと思います。

僕ら理学療法学科には臨床実習と国家試験という2つの大きなハードルがありますが、今は、第1のハードルである臨床実習を終え、国家試験に向けて頑張っています。そして、その国家試験を終えるとついに1人の医療従事者となる時です。今、僕には、心の中に抱いている目標とする理想の医療従事者の姿があります。これから、臨床の場に出ていき、つらいこと、大変なことにぶつかるとも多々あると思いますが、その目標の姿を忘れず、患者さんにとって最高の理学療法士になりたいと思います。



第？次成長期

医療技術短期大学部 看護学科 木上 明子

医療を通して人と関わりたいと思い医技短に入学して早3年が過ぎようとしている。思えば私たち13期生は医技短最後の

学年である。だからといって何も特別なこともないのだが...。でも、この3年間で私自身いろんな意味で大きく(?)成長したと思う。特に臨床実習が記憶に新しい。周囲からいずみちゃん(ナースのお仕事)、おたんこナースと呼ばれそれは違う!と否定してきたものの数々のドジ、患者さんとのバトル...など否定できない事実の山...。でも失敗は成功のもとともいうし(ん!?)。白衣姿も板についてきたし。体型:ただ今横へと暴走中(泣)。体質:最近実はお酒が強いと判明。(あの親にしてこの子あり!?)恋愛:順調順調(ムフフ)。とまあこんなところである。21世紀を迎えた今、私たちは新しい第一歩を踏み出した。そこからを出発点として自分をもっと磨き、患者さんから信頼されるナースになりたい。



大学での思い出

留学生 医学部 医学科 張 爾

鹿児島へ来て、今年で6年目になります。あっという間の6年間でした。この

6年間、学問など勉強以外で、沢山のひとと知り合えたことが自分にとって一番大きな財産だと思います。みんなと一緒に学校に泊まって勉強したこと、休日、みんなで飲み会をしたことなど今でもはっきりおぼえています。

また、学校の部活を通じても沢山の思い出をつくることができました。自分はバスケットボールの初心者だったので、最初は嫌なことばかりで、何度もやめようと思いました。しかし、そんな時に同級生からはげましの言葉が自分にとって大きな力になりました。みんな支えられて、無事大学を卒業することができたと思います。みんなに感謝しています。



卒業にあたっての私

留学生 医学研究科 Moe Moe Aye

まもなく卒業する私にとってあっという間だったと言う気がします。突然主人の都合で来日し医学部に私費留学で博士課程に入り前向きに努力した結果と言っても過言ではありません。一方主婦としても家庭と勉強をバランス良くこなして来ました。

活動としては若い医師、大学生達の英会話や研究室の仲間達の英語論文のチェックをしたり国際交流プログラムに参加したり仲間達との付き合い等で多くの経験が出来満足しています。

常日頃から、その機会を与えて下さった納教授をはじめ出雲教授その他お世話になった皆様に心から感謝しております。今の気持ちは一人の医学研究者として今後病気の治療方法に役立つ研究をやれば良いなあと考えています。そして日本へよんでくれた主人にもありがとうと言いたいです。

最後に一言“何事も明るく考えて精一杯頑張れば必ず成功する”

退官にあたって



世紀発への所感

教育学部教授 松田 健一

時の流れは悠久であり、21世紀の扉が開いたとたんに別世界に変わるものではないが、世紀の節目に停年を迎えたとなると私にとっては大きな意義がある。老兵は消え去るにあらず、次なる旅立ちへの序章との思いを込め、楽しいプランを構築して動き始めました。

ところで、鹿大に赴任したのが昭和45年で当時の日本は激動の時で、鹿大も学生運動で揺れ動いていた。それから30年の歳月のなかで、しばし穏やかなキャンパスであったが、世紀初めに大学独法化という問題を抱え波高いキャンパスになってきました。皆さんの力でよき大学環境になることを祈念しています。教え子には私の専門を伝え、よき人材を育むことができたと自負しています。後顧の憂いなしという心境で大学を去ることができることは幸いです。30年間の在職中は、教職員の方々のご理解のもとで研究・教育に専念できました。感謝致します。最後に明日を荷う子等を育てる力量ある教師養成に期待しています。



地域の伝統に対する責任

理学部教授 堀田 満

鹿児島は野生の植物も豊富であるが、栽培植物にダイジョやシマダイコンを初め南方系の在来の作物の品種がいろいろと残されている。しかしこれらの在来栽培植物の大部分は、現在絶滅に至る最後のプロセスに入っている。それらはいずれも九州南部から南西諸島に存在する貴重な遺伝子資源であるが、研究もされないままに消え去って行きつつある。この状況は、地域の実体に目を向けることの少なかったわが大学にも大いに責任があるように思われる。鹿児島大学では、「新しい鹿児島学」が始められているが、栽培植物も、人の系譜も、社会システムも、そして地域固有のように見える文化の伝統も、地球的な規模でのヒトの移動と交流の中で受容され、育てられてきたものである。「鹿児島学」がもし地域性に寄りかかった「学」で終われば、人類の知に寄与出来るような総合的な地域研究は展開できないのではないかと心配である。

大学を去るものとして、地域に開かれた大学であっても、地域に埋没した大学にはならないように願っている。



分銅の重み

理学部教授 金田 信

実験室の高い棚の上に化学天秤がある。もはや補充がきかない最後の一台である。その下では電子天秤が盛んに活躍している。化学実験の基本の一つは物質の計量であるから、化学天秤の皿に風を軽く送って左右に振動させ、指針の零点を測定することが実験のスタートであった。計量の際は自分の手で分銅を皿に乗せるから、重さに対する実感が手に残った。確かに、電子天秤はあなた任せで便利であるが、私には表示された計量値に一抹の不安を覚える時がある。そこで上記の化学天秤の分銅を借り、検定することで納得し、安堵する。ハカリの類なら分銅によって正しい検定が可能であるが、これからの教育や研究、押し寄せるマスメディアなどの過剰情報の波に溺れないために、今こそ内なる分銅の備えと実践が必要ではないだろうか。棚上の化学天秤を眺めては思う、ものごとの基本と初心を忘れるべからず、あなたはそこにいつまでも鎮座していて欲しいと。



新世紀へ向けて

歯学部教授 野井倉 武憲

人生にとって“節”ははじめをつけるという意味で重要であり、出処進退は時期がくれば必ずから決まることに意味があります。

歯科放射線学講座は2年後の昭和54年の4月に開講しました。翌55年4月に歯学部附属病院が完成し本格的な診療が始まりました。それから早や22年の歳月が流れ、時のたつ早さに今更驚きのほかほかなく停年を迎えることになりました。とくに最近我々を取り巻く環境も大きく変動の時代を迎え、21世紀に向けて大学の構造変革が問われております。我々歯学部にあっても次の世代を見つめた教育、研究、また附属病院における臨床教育さらに地域の特異性を考慮した病院のあり方など論議されております。歯科放射線学講座の22年の経過を振り返り、道末だ遠き世界に思いを馳せ、21世紀に向けて生まれ変わろうとする大学の中で、次の世代を担う新しい構想による歯科放射線学の発展を期待するものであります。

老害



工学部教授 前田 明夫

桜島を背景にした郡元キャンパスの銀杏並木が季節を宿す姿は美しい。萌黄色から濃緑に、明るい黄色から落ち葉に。気のせいか今年は黄葉から落葉に至る期間が短く思えた。鹿児島大学に赴任する約半年前に、海洋研究所の白鳳丸の船上で40歳の誕生日を迎えた。期せずして白鳳丸2世の船上で65歳の誕生日を迎える事になった。誕生日を祝ってくれた先輩に、深酒して心配をかけた上、説教してしまった。恥ずかしい次第である。私は運が良い方である。12年前に大型科学研究費を頂いて、前からやりたかった研究に取り組めた。実力があつた訳ではなく、この研究が必要な時に生きていただけた話である。

この25年間に、工学部の組織改革、連合大学院設置、理工学研究科博士課程設置、教育学研究科設置、教養部の解体と目まぐるしく変わった。この時味わった産みの苦しみの経験を生かして、エゴを主張せず、直面している鹿児島大学の危機に立ち向かって下さい。

鹿児島大学への期待



工学部教授 林 理三雄

平成4年7月に鹿児島大学に着任し、9年間お世話になりました。鹿児島の温暖な気候と人々のゆったりした生活、親切な人たちに囲まれて、良い環境で生活が出来たことを感謝しています。着任早々から、卒論生の面倒を見ることになり、設備も無し何も無しで、どうするか当惑しましたが、総じて配属された学生は優秀でした。日常は頼りないと思われる学生も、学会発表させると期待以上の者が多かった。学生気質の変化、学力の低下等問題点もあるが将来を信頼して任せられる学生も多いことを嬉しく思った。

これからは、21世紀に向かって数々の大学改革が進み、全国横並びの大学はもはや通用しない。全国に例のない新しい構想が求められている。その様な状況の中では、鹿児島の特徴を生かした鹿児島大学の存在意義を明らかにする必要がある。そして、地域の頼りになるインキュベーションセンターとして、また、高等教育機関として地域の人々や学生を裏切らない大学として、その役割を發揮され、発展するように願ってやまない。

飛躍の前には縮むことも



工学部教授 古川 純康

21世紀における飛躍のために必要なのは競争原理の導入であり、保守性と悪平等主義がそれを阻む、というのが社会一般の認識である。この点で大学の体質は大幅に遅れている、というのが企業出身の私の感想である。

バブル崩壊後の日本社会は、種々の面で縮小均衡を模索し続けて来た。多くの企業は売上高増大の目標を降ろしてでも利益を優先させ、体質の強化に骨身を削った。タブーだった人員削減も断行した。政治家でさえ自ら議員定数の削減に挑戦した。今後も人口、特に若年人口の減少を背景に、基本的な方向は変わるまい。たとえ進学率の向上という錦の御旗があっても、大学だけが拡大し続けることは可能かどうか。学生数を減らしてでも質の良い者を送り出す方向に転換することが、今後の大学間競争に勝ち残るための、最良の方策と思われる。拡大・縮小が意のままに出来ないことは承知の上だが、飛躍の前には一旦縮むことも真剣に検討すべきではなからうか。

20世紀とともに65年



農学部教授 清水 孜

私は本性動物の形と動きに興味があり、高校時代に育雛と養鶏の経験がある。大東亜戦争と戦後民主主義の影響が最大で、大抵の大人が時代の風潮に流され、自分の信念でからでなく生きていることを知らされた。上からの命令に忠実な生き方から自己主張する生き方にうまく切り替われなかった。父祖三代目の教師の家系だが、英文科を出て教科を教えることは出来ても、本当の生き方を教える自信は無かった。実験で自分の考えを確かめられればと、学士入学した獣医学科で恩師山本脩太郎先生に出会い、戦前戦後で生き方を変えなかった人として師事した。以来40年、鶏胚を用いた実験から始まり、三箇所の職場で感染・中毒・腫瘍に渡り広く学ぶことが出来た。最後の18年を鹿児島で教育に携われたのは幸福であった。私は自然を誠実に観察することを伝えたかったが、如何であったか？情報社会であるが、自分の目と手を使って考えて欲しい。新しい発見はそこに始まる。



大学演習林を全学的な 森林環境教育研究の場に

農学部教授 吉良 今朝芳

森林は、今地球規模でその保全と持続的な利用が求められています。本学には高隈演習林3,065ha、佐多演習林299ha等が設置され、昨年90周年を迎えました。この間多様なスギ人工林の育成と照葉樹林の保全が図られ、環境林と経済林とのバランスのとれた森林が形成され、全国大学演習林の中でも誇れるものとなっています。最近はこの多様な森林を使った環境教育研究を積極的に展開し、公開講座などで地域社会との連携に努めています。

21世紀に向けての大学演習林のあり方について、新たな展開が求められている時期にあります。特に広大な面積を有する本学演習林では、長い歴史の中で蓄積された試験地、学術参考林等の情報公開と、全学部学生と連合農学研究科の外国人留学生を対象にした森林保全・環境教育等への新たな取組が重要であると考えています。どうか今後とも大学演習林の使命にご理解を頂き、新たなご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



持続的農業に役立つ情報発信を

農学部教授 林 満

鹿児島大学農学部に着職した1960年は、開発途上国の食料不足の解消を目的とした各種のプロジェクト研究が国際農業研究所において開始された年であった。

これによって途上国の食料不足は解消されるだろうという期待から、その成果を「緑の革命」と讃えた。そして、高収量品種と化学肥料・農薬や灌漑などを主体とする新しい農業技術は、世界各地に広く普及し、その後20年間世界の食料生産量の増加率が爆発的な世界人口の増加率を常に上回り、すばらしい技術と評価されてきた。しかし、その後の15年間では、この農業技術が砂漠化や塩類集積など土壌の劣化をもたらし、グローバルな「環境と開発の衝突」の大きな原因と認識されるようになってきた。

この間の農業教育も問題認識の変化を受けて「化学エネルギー多投下による生産性の向上」から「環境保全型農業」へと変化したのは当然の成り行きと受け止められた。

現在進行中の本学の総合プロジェクト研究「環境革命への試行」は、まさに良いタイミングの企画であると言える。願わくば21世紀には、「農業の生産性の向上を図りつつ環境への負荷の軽減を配慮した持続的農業の確立」に役立つ情報が本学から発信されることを祈念する次第である。



鹿児島大学の発展を祈って

水産学部教授 佐藤 守

水産学部に着任して8年余りの短い期間でしたが、豊かな自然、心暖かい人々との出会い、それに新鮮な魚と酒友に恵

まれ、楽しく過ごさせて頂きました。赴任した当初は勝手が分からず、大先生からは「歴史を勉強してからものを言いなさい」とのお叱りを受け、戸惑うこともありましたが。

大学は今、改革の真っただ中にあり「独法化」という大波にさらされようとしています。大学審や文部省の線に沿っての改革を迫られるなか、改革が進められる程に段々と個性が失われ、大学が「モドキ」となりはしないかと心配です。どうか、わが母校、鹿児島大学が「個性豊かな大学」へと更なる発展を遂げられるよう皆様のエネルギーの結集を期待しております。

退官に当たり、お世話になりました皆様方に心から感謝申し上げます。皆様の御健勝をお祈りいたします。



鹿児島大学への期待（エール）

施設部 富永 慎吾

公務員生活最後の3年間を鹿児島大学にお世話になり、多くの方々とお近づきになり、楽しく勤めさせていただきまして大変感謝いたしております。

この3年間、「よりよい大学づくり」を目指し「教育、研究、医療」推進のため、多くの方々のお知恵を頂き、ご指導ご助言のもと微力ながら、施設整備に取り組むことが出来ました。まだまだやり残しはたくさんありますが、半歩程度は前進したものだと思っています。

21世紀は文部科学省となり大学の自己改革を求める独立行政法人化も目前に進んでおり大学運営面において大きな課題を抱えておりますが、日本の南の門戸に当たる鹿児島大学が世界の発信基地となり「鳳」のごとく翔られることをお祈りいたします。

退職後は博多で暮らします。そこで博多人の「コマーシャルにわか」を一つ

「どうかいな、博多のもんな気が荒かばって、案外に親切で評判のよかやね」

「ほーめずらしかな、都市化されりゃ人情は紙より薄かて聞いとったが、そらア、ほんなことな！」

「そうクサ、博多駅前の黒田武士の銅像バ、ようと見てんないや・・・」

「ほお、こらア、ほんなこと、いつも「重い槍」(思いやり)ば、持ってござる。」

来博の節は是非お声をお掛けください。九州の「尤」として優しく、そして強い鹿児島大学の益々の発展と皆様のご健康をお祈りいたします。ありがとうございました。

信念と責任



医学部 岩尾 忠春

愈々、新世紀の始まりである。20世紀は「戦争」の時代であったと言われている。世界大戦、ベトナム、中近東や冷戦崩壊後の宗教・民族的戦争等である。21世紀はせめて平和や環境保護等の人間性尊重の「豊かな心」の時代であって欲しい。

さて、大学はどうであったらうか。明治36年（1903年）の専門学校令や大正8年（1919年）の大学令の新しい高等教育制度により、個性と建学精神豊かな創始者による大学・高等専門学校の設立は、教育熱心な教師と向学心旺盛な学生による活力ある高等教育の展開であった。然しながら、独創的・意欲的な20世紀の前半に比べて、後半の戦後教育は画一・マンネリ化した高等教育ではなかったかと思うのは私一人であろうか。

せめて、新世紀は先人達の情熱と努力を思い起こし、個性ある鹿児島大学の構築に期待したい。時は正に、我々に試練を与える独法化の波が押し寄せている。頑張れ諸輩よ！！

40年の思い出



施設部 松下 鐵郎

昭和36年5月に鹿児島大学に採用されてから今年の3月で約40年たちます。当大学には最初は51年5月迄お世話になりました。最初の頃は仕事がなかったので、

課長から除草しろといわれた事があります。36年男子寄宿舎C棟、37年附属中学校舎等の工事がありました。その後年3～5件位の工事があり、大変忙しい思いをしました。48年医学部研究棟工事があったのですが、入札後オイルショックになり、特に思い出しますのは型枠が約10万㎡あったのですが、業者から1億円の損だということをよく聞きました。鹿児島大学を出ましてから、茨城大学、福井医科大、岐阜大学等9か所の国立大学等を経験しました。いろいろな人と出会い又いろんな経験をしました。これは人生の上で大きな財産だと思っています。現在総合研究棟の工事をしていますが、定年迄に完成しないのを残念に思っているこの頃です。定年2年前からまた鹿児島大学にお世話になり、通算鹿児島大学には約17年間お世話になりました。大過なくここ迄これたのは皆様のおかげでございます。どうも有り難う御座居ました。

退職にあたっての雑感



教育学部 福地 尚武

私は昭和38年4月に鹿児島大学に採用され、農学部、工学部、医学部附属病院、宮崎医科大学、施設部、歯学部、経理部主計課、霧島リハビリテーションセンター、理学部及び教育学部と38年間の永きにわたり鹿児島大学にお世話になりました。今、走馬灯のように思い出が頭の中に思い浮かんできます。特に、宮崎医科大学での5年間は附属病院開院に向け休日返上で対応したこと、私自身の人生最大の勉強をさせていただきました。また、霧島リハビリセンターの2年間の単身赴任は、人生の見直しの時期に遭遇した思いで一日、一日を田中センター長とセンターの環境整備に、理学部の2年間は堀田学部長と大学院博士課程の整備に、教育学部の2年間は坂尾学部長と大学院整備に精力的に取り組み充実した38年間でした。21世紀初頭の3月に定年退職いたしますが、良き先輩、同僚、後輩に恵まれ幸せでした。今後、教育改革、独立法人化等国立大学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、鹿児島大学が21世紀に向けて、羽ばたくことを祈念いたします。本当にありがとうございました。

定年退職にあたって



工学部 大園 健三

21世紀当初に定年を迎え大過なく卒業できますことは、偏に多くの先輩、上司、同僚の方々のご指導と叱咤激励の賜物と深く感謝申し上げます。

20世紀の終りは、バブル崩壊そして阪神淡路大震災等の異変現象が起こり、社会情勢も著しく変化し、非常に厳しい時代を迎え国立大学にもその荒波が押し寄せています。

今、国立大学の独立行政法人化への道しるべが検討されています。13年度中に結論が出され2・3年後には独法化されると思われます。大学・学部の統廃合もあるやに聞きます。我が鹿児島大学はどこへ行くのか心中穏やかではありませんが、生き残りをかけた真剣な議論を重ねられ、21世紀に相應し世界に羽ばたく、すばらしい大学に改革されるものと確信しています。

鹿児島大学が今後どのような姿に生まれ変わるのかを見届けずに定年退職することは、後ろ髪を引かれる思いもいたしますが、一方では安堵感もあり複雑な心境です。鹿児島大学の益々の発展と皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。



ありがとう！鹿大よ永遠に！！

水産学部 竹下 禮齋

東京教育大学（現筑波大学の前身）での9年を含む40年の間には語り尽くせない程の思い出がありますが、とりわけ『微力ながらもある時は大学のために、ある時はそ

れぞれの部署で出会った人々のために、私利私欲を捨てて、誠心誠意尽くしてきた』という自己満足感と充実感を抱きながら、お別れの言葉を申し上げることが出来ますことは大変幸せに存じます。これも皆様方のご指導と、お力添えのお蔭と心から感謝申し上げます次第であります。

さて、時は過ぎ国立大学の独立行政法人化・統合化等は、今や避けて通れない大きな問題となっています。独立行政法人として生まれかわるであろう新体制の中で「どうしたら日本の、いや世界に誇れるような教育研究システムを構築できるのか？」新しい鹿児島大学が進むべき道を拓くために、大学を構成する全員が、今こそ力を結集して取り組んでいかなければならない時期ではないでしょうか？皆様方のご健勝と、ますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、伝統と歴史ある鹿大が、明るい陽光を浴びながら、いつまでも輝き続けてほしいと念じつつ退官のご挨拶といたします。ありがとうございました。鹿大よ永遠に！！



思い出

農学部 小平 年弘

昭和34年、農学部附属高隈演習林に現地採用になってから光陰矢のごとし40年の月日が流れた。学生服姿にポストンバグーつで今は亡き父と一緒に演習林の門をくぐった日の

ことを思い出す。当時の演習林は交通機関と言えば1日2往復のバスのみでまさに僻地であった。

最初の仕事は、施業案の伐採計画に基づく測量・立木調査から伐採搬出・貯木場に極積するまでの斫伐担当で、7年の間、特に業務を遂行する上での人間関係の大切さを痛感した。

演習林本部に配置換え後は、事務の傍ら演習林の南北を結ぶ中腹林道の岳野～椎木神（前管理所）間9kmちかくの設計に携ったこと等印象深い。公務員生活の後半では、特に連大の設置に伴う農水系学部の活性化等「連大効果」を実感し、そして、12年間を過ごした事務局を始め各部局では、尊敬できる上司・先輩、良き同僚・後輩に恵まれ幅広いもの見方・考え方等貴重な体験をさせていただいた。

40年の間それぞれの部局で多くの方々に支えられながら、最初の赴任地の農学部で定年をなんとか無事に迎えられることを皆様に深く感謝申し上げますと共に、21世紀は、激動の年、鹿児島大学も改革等正念場を迎えますが、皆様の英知と最善の方策で更なる発展があることを確信しております。最後に皆様方の益々のご健勝とご発展を心からお祈りする次第です。



定年退職に際して

庶務部 吉満 榮

月日のたつのは早いもので私が鹿児島大学の事務職員として公務員生活に入ってから40有余年になります。40有余年という

とかなり長い年月である、にもかかわらず案外短かったように思います。

昭和34年に医学部に採用され、その後教養部・教育学部と様々な学部で色々な職務を経験させて頂き、また各職場の皆さんとともにした色々な出来事が今は懐かしい思い出として深く心に残っています。

40有余年の中で特に平成元年だったと記憶していますが、30数年ぶりに教員免許法の改正があり、その課程申請について特に印象に残っております。

この3月で退職となりますが、今日まで無事に勤めることができたのも諸先生や上司、先輩、同僚、後輩諸氏の御指導、御援助、御鞭撻があればこそと深く感謝申し上げます。

近年国立大学の独立行政法人化、事務一元化等取りまく環境は厳しいものです。鹿児島大学もこれに対応すべく検討がなされていますが、今後さらなる発展と皆さまの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。



特別寄稿



まだ見えぬ未来

鹿児島大学運営諮問会議委員 石窪 奈穂美

「ついに21世紀を迎えた。」

と言いたいところだが、やけに呆気なく21世紀になってしまったといった方がいいのかもしれない。

「21世紀イコール未来」だった“21世紀”という響きは現実のものとなり、未来は22世紀を視野に入れることとなった。どんなに長生きしても来世紀まで生存している可能性は皆無なので、近い未来から遠い未来へ、勿論未来の捉え方は様々だろうが、あくまでも私にとっての未来は遠いものとなった。

見える未来から見えない未来へ、捉えづらい未来になったことで、逆に未来を語る事が自由になったと捉えたい。大いに夢を語れる未来であってほしいと思う。

夢といえば、思い出すことがある。実は、私は数年前まで短大で週3講座を6年程担当していた。当時、毎年初回到短大生にアンケートを実施していたが、その中の設問の一つとして、「理想のライフサイクル」について尋ねている。その回答をみると、短大生だけの特徴かもしれないが、「結婚し退職、子育て後はパート勤め」という、女性労働のM型曲線を絵に描いたような答えがほとんどであった。この選択を否定する気はないが、あまりに一律化された答えに驚いたのを覚えている。その傾向が毎年続いた。他の設問も含めて分析したが、彼女たちが“夢なし世代”であることが顕著であった。短大入学時点で、「私の人生はまあこれくらいか」と自ら線引きしている様子が見えかけた。そのような中で学ぶことへの貪欲さはあまり望めなかったように思う。別な場合もある。希望の大学に入ることが目的化し、それに向かってひたすら受験勉強してきたことへの脱力感や解放感を感じる場合。どちらにしても、大学の本来の目的からすれば残念なことである。

「お母さん、ダイガクって何する所」

「大学はねえ・・・」

と、尤もらしい答えをいう母。

「ふ～ん、ボク、遊ぶ所かと思った」

とある親子の会話である。随分利発そうな子どものサラリとした一言だが、笑うに笑えなかった。一時期、大学がレジャーランド化しているといわれたが、これも真面目に学ぶ学生にとっては失礼な話である。が、果たして実際のところはどうか。

元々、日本には商・工・農の「高等専門学校」が全国にあり、現場に通用するプロフェッショナルを養成していた。戦後、それらが一律の「大学」になり、ある方いわく、「『コンビニ』のように数は増えたが、およそプロと呼ぶには恥ずかしい人材を大量生産し始めた」と。勿論、私もその一人であり耳が痛い、日本の高等教育でなぜ今プロが育ちにくいのか。「日本は戦争に負け、マネーで負け、特許で負け・・・と言われているが、実は最大の敗北は教育ではないか」とのキツイ言葉にもなぜか頷いてしまうような昨今の世相である。

そんななか、元気がいいのが、一度社会に出た大人たちである。“生きることは学ぶこと”と、生涯学習ニーズが高まっているが、大学でも知的好奇心に湧く社会人たちが戻ってきているという。

鹿児島県教育委員会が県民を対象に実施した生涯学習意識調査（平成8年9月）でも、大学や短大への社会人入学について、「入学したくない」は44.4%だが、「できれば入学してみたい」42.5%、「ぜひ入学してみたい」7.8%と、ほぼ半数の人が社会人入学を希望しており、知的欲求の高さがうかがえる。なかでも30歳代は「ぜひ」が15.3%と最も高率で、「できれば」も合わせると61.6%に上る。確実に社会人入学

のニーズは高まっているといえる。

「学びたい！それが入学資格です」という放送大学のキャッチフレーズの如く、知的渇渴感を覚えた人が、知的快感を味わい、勉強の面白さにハマってしまった・・・との声を聴くと、この想いを一般の学生の時期に感じることができれば・・・。

まだ見えぬ未来へ。

個性ある大学をどのように創っていくか・・・といった全体像と共に、個からみた大学のあり方を語り合うスタートの年となればと思う。そして、最終的には、「産学官プラス民」の連携を基にした新しい主体として、地域の活性化へ広がっていかんことを願っている。



第1回鹿児島大学運営諮問会議（平成12年7月）出席



略 歴

1982年 お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業

1989年 通産省認定消費生活アドバイザー資格取得（鹿児島県第1号）

現在 生活者の視点から、農業、商業、まちづくり、消費生活、環境エネルギー問題、福祉等、広範囲にわたる講演（年間80～100回）、アドバイス活動を行う傍ら、鹿児島大学運営諮問会議委員、鹿児島県卸売市場審議会委員、南日本放送番組審議会副委員長、九州通産局九州経済産業政策懇談会委員等々の委員の他、各市町村等の各種委員会委員を兼務。

学内だより



21世紀を迎えて

— 学長二期目の御挨拶 —

学 長 田 中 弘 允

鹿児島大学の評議員の皆様、教官、事務官、学生の皆様、新年明けましておめでとうございます。

21世紀の始まりを告げる最初の年にあたり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

今年の元旦はすばらしい天気恵まれ、初日の出は見事なものでありました。太陽が世界を照らすことが、我々に大きな明るさ、勇気、希望を与えてくれることを、身をもって感じることができました。

この21世紀の初頭、皆様の御推挙を得まして、鹿児島大学の向こう2年間の舵取り役を仰せつかり、大変光栄に存じております。2,300名の教職員と11,000名の学生の皆様と共に仕事ができますことを大変光栄に思います。更なる御協力をお願いしたいと思っています。

私どもは、20世紀の時代を生きてきました。この時代は科学技術の発達を基礎にした物質文明のめざましい発展を成し遂げましたが、同時にその陰の部分を見えなくなった時代でもあります。そのため人類はその課題の解決に立ち向かわなければなりません。例えば、地球環境の破壊を停止し、すばらしい環境を再生させること、食糧不足を解消し、また健康の保持、子孫の保持ができる食材を生産すること、超国家的資本による富の収奪に対し、国家、地域、個人が立ち向かう方策を立てること、不安と混乱の社会を人間性豊かな秩序ある住みやすい社会へと変えていくことなどが、焦眉の急を要している課題であります。これらのことは、人類の英知をもってすれば必ずや解決される問題であると信じます。何故ならばこれらのものは人類の過度の欲求と先見性の不足によって起こったものだからであります。その解決のために我々がそのことに気づき、英知を傾け総力をあげて実行することこそ、今求められています。そうすることが初日の出に象徴される21世紀への明るい希望の実現につながるものであ

ります。

鹿児島大学は、平成9年に教養部を廃止し、各学部を充実させ、4(6)年一貫教育を導入するという大きな改革を行いました。そして、皆様の御努力により新制度にきちんと魂を入れる作業が着々と進んでおり、教育・研究面での充実など一定の成果をあげることができました。研究面についてみますと、新事実の発見や新しい方法論の確立、病因の究明や治療法の開発などで世界をリードするすばらしい成果があげられています。これらの伝統的な学問分野での研究は、自然科学、人文社会科学を問わず学問の中心的部分を形成しており、独創性の高い研究の価値はすばらしいものであります。また、産学連携などの強力な推進による地域貢献、留学生の増加や留学生センターの新設、国際学術交流協定校の増加などの国際化なども進み、地域に根ざした大学、南に開かれた国際性豊かな大学へと大きく前進いたしました。

また、全学合同研究プロジェクトの「環境保全型農業」、「新しい関係性を求めて - コミュニケーションの諸相 -」、「エコタウン、エコキャンパスなどの環境問題」、「離島学の構築」、「地域学の創造 - 新しい鹿児島学 -」を創設し、人類に課せられた使命を達成しつつあることは私の誇りとするところであります。

このように、わが鹿児島大学はすばらしい発展を遂げてきたということが出来ますが、目を学外に転じると、現今の社会は著しい速さと規模で大きく変わりつつあります。

一般に大学の理念は、高等教育、学術研究を通じて人類社会に貢献することでありますので、社会の変化や要請を正確にかつ鋭くとらえ、それへの対応を自覚的にかつ自律的に考察し、必要な行動を起こすこと、つまり、大学自らがこれらに現実的に対応しなければなりません。これとは別に、学問自体の進歩発展により、知の枠組みの変更を含む改革が必要になってくるものもあります。これらのことから言えることは、大学は常に自律的に自己改革が必要であるということであ

あります。

鹿児島大学の組織改革がスタートしてやがて4年が経過します。更なる組織改革が必要となっている部分もあるかと思えますし、また、4年前の改革でやり残した部分もあるかと思われまます。組織改革は、その労力や時間、心理的影響等多大なものがありますが、必要な時は果敢に実行すること、また、これを全体でサポートすることが大切であります。私は学長として強力なリーダーシップをもって前進したいと決意を新たにしています。今年は、それが必要な学部等における組織改革を進める年であると考えており、皆様の御協力をお願いしたいと思います。

次に本学の教育の問題を取り上げたいと思います。大学の使命は伝統的な学術文化の継承・保存、知的創造、豊かな人間性と幅広い教養をもった社会人の育成、社会貢献であり、その達成のために、私たちは教育・研究活動を行っています。社会から大学への期待と批判の中で最大のものは、大学教育の在り方です。21世紀を担う若者に、大学はきちんとした教育を行っているのか、といったことがマスコミに取り上げられることは、日常のことになっています。このことへの改革を踏まえた反省をきちんと行うことと共に、自らを省みること、つまり自己点検評価を行うことが必要とされています。

学問が進歩し、学生が学ぶべき知識量は著しく増加していること、進学率の上昇やゆとり教育のためのいわゆる学力低下、学生の勉強への動機づけの低下など、教育上の大きな課題が提起されています。一方、私ども教官は研究業績中心で選考されており、多くの教官は少なくとも教育方法について特別な訓練を受けていないのが実状であり、各教官の自己努力によって教育を行ってきています。そのようなわけで、教育の理念、方法論、評価等や社会のニーズについて、教官が組織的に考え、訓練を受け、より良い教育を授けることが必要となってきています。これは、Faculty Development (FD) と言われている分野であります。本学でも医学部が平成元年から10数回医学教育ワークショップを行っていますが、全学的なFDはありませんでした。この度、山原委員長始め共通教育委員会の御努力によって、全学部参加の共通教育に関するワークショップと講演会が開催され、多大の成果をあげた

のであります。また、種村教育研究検討委員会委員長からもFD委員会開催の提案が近いうちになされる予定であります。このような背景から、今年の全学的な大きな目標の1つが、各学部並びに大学全体のFD委員会を作り教育の改善に乗り出すこととあります。

以上のことから、今年は組織改革の年、教育に関するFDの年と位置づけたいと思います。

その他、昨年から今年にかけて多くの概算要求や大きな補正予算が認められた結果、総合研究博物館、機器分析センターといった全学の教育研究施設の新設、副学長の設置、離島医療学講座の設置、南星丸の代船建造、キャンパス情報ネットワークの整備、医学部の校舎整備などが行われる予定であります。また、本年9月には総合研究棟が完成の予定であり、VERA計画についても現在進行中です。これらは、教職員の皆様の御協力なしには本来の目的を達成することはできません。教職員の皆様がこれらの器にすばらしい魂を入れて下さることを期待します。私も全力を尽くしたいと思います。

今年は、おそらく大学を取り巻く諸問題に何らかの大きな展開がある年です。国立大学は大学改革の一環として独立行政法人化すべきか否かということ、もし、すべきであるとすれば、どんな制度設計があるのかといったこと、このことは、今、私も含めて文部省が中心になって検討しています。私たちは、時のジャーナリズムの風潮に流されることなく、また、無自覚、無抵抗の状態で政治改革の力に流されることなく、高等教育、学術研究の立場に立って常にあるべき姿を深く考え、発言し続けていくべきであると考えています。

この問題は、単に我々の世代にのみ関わる問題ではなく、次世代へどんな学問の場を残すかという非常に大事な問題であり、まさに国家百年の大計に関連するという意味でも重要です。私自身は、わが国の大学改革には、設置形態を根本から変えて、国立大学をなくし独立行政法人とするなどという革命は必要でなく、大学の自律的な改革に基づく進化する大学を目指すことがベストだと考えています。この問題は大学改革と行政改革という2つの立場の大きな対決となるわけで、これからどのような展開になるかは不透明であります。いずれにしろ、教育・研究の立場から考え、きちんと発言して

いくこと、鹿児島大学の実力を蓄えておき、世界で、日本で、鹿児島でなくてはならない大学にしていくこと、このことが何よりも大事であると思います。

21世紀は難局であるとする人が多いのですが、私は必ずしもそうは思いません。私たちは明るさ、情熱、英知を持っていますので、必ず素晴らしい未来が開けると信じております。私たちは今、21世紀に第一歩を標したところであります。このことを大切に、何事も恐れずに大胆に情熱をもって真っ正面から進んでいきたいと思っています。

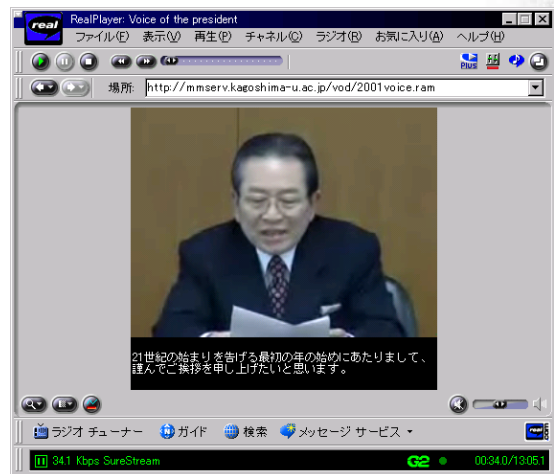
最後になりましたが、皆様方のたゆまぬ御努力に心から敬意を表すると共に深く感謝いたします。

本日は評議員の皆様のご御理解をいただき、新世紀の初めに

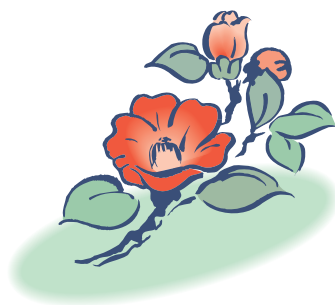
当たり、本学で初めてliveで新年の御挨拶をすることができました。御苦労いただきました水産学部、工学部の先生方を中心とするネットワーク・ワーキンググループはじめ関係各位に感謝いたします。今後、学長からの情報発信をこのような形で続けていきたいと思っています。皆様方からもまた様々な御意見をいただければ幸いです。

以上、今年皆様に御協力をお願いしたいことと私の決意を申し述べさせていただき、新世紀の初めの年頭の御挨拶いたします。

(この文章は、平成13年1月11日鹿児島大学評議会年頭の挨拶の一部を改編したものです。)



平成13年1月11日にライブ中継した映像は鹿児島大学のホームページ (<http://www.kagochima-u.ac.jp/>) でご覧いただけます。



随 想



噴煙と火山ガスを追う

教育学部 木下 紀正

有珠山噴火から諏訪之瀬島の活動に到るまで、2000年は日本各地で活発な火山活動が見られた。特に、三宅島噴火では火

山ガスの放出が著しく、9月始めから住民の全島避難を余儀なくされている。他方、1955年以来続いている桜島南岳の山頂噴火は、世界の火山の中でもマラソンの活動のトップランナーと見なされている。噴煙は火山活動の指標であるとともに気象条件に敏感であり、大気の流れを可視化する自然現象として特異な存在である。噴煙と共に放出される火山ガスは近くに影響するだけでなく、時には数十から数百km下流で検出されることもある。噴煙の上昇発達と移流拡散、及びそれに伴う火山ガスの振舞いは、人工的なトレーサー実験の及ばない大規模な自然流体现象として大気環境に関するユニークな情報源である。降灰は周辺の住民生活にとって迷惑なことであるが、盛んに活動する桜島は我々の目前に大気拡散の巨大な実験装置があるようなものである。

教育学部物理学教室では、人工衛星による九州の火山噴煙のリモートセンシングを大学内外の機関の研究者と協力して進めるとともに、地上からの桜島映像観測を続け、高層気象データ、火山周辺や遠隔地の二酸化硫黄濃度連続モニタリングデータなどを解析し、噴煙と火山ガスの大気拡散について研究して来た。その結果のうち、噴煙の具体例や火山ガスとの関係、様々な衛星画像については、

「火山噴煙の写真と動画のページ Volc」

<http://www-sci.edu.kagoshima-u.ac.jp/volc/>

「衛星画像ネットワーク鹿児島グループ SiNG」

<http://www-sci.edu.kagoshima-u.ac.jp/sing/public/>

のホームページで公開している。

このような研究は、酸性物質の輸送など様々なスケールの大気環境問題の解明に役立つと考えられる。特に三宅島噴火では桜島と同様の二酸化硫黄を多く含む高温火山ガスが大量に放出されており、島内の観測体制維持および将来の帰島と復興のためのガス防災対策や、三宅島から本州各地に達している火山ガスの動態を理解する上でも桜島火山ガスについての結果は重要な手がかりとなる。我々のグループでは大学院連合農学研究科の衛星画像受信システムによる気象衛星ノアのデータによる噴煙検出と、火山ガスや噴煙映像のインターネット情報などの総合的解析によって、三宅島火山ガスの動態解明に取り組んでいる。

この受信システムのデータからは、噴煙検出の手法を用いて中国大陸から太平洋にわたる黄砂の大規模な移流拡散が鮮明に検出されることが分かり、SiNGホームページの国際版の中で公開している。また、薩摩半島の南40kmの薩摩硫黄島では日鉄鉱業と協力して噴煙自動観測システムを設置し、1時間毎の蓄積映像をVolcホームページで公開している。さらに、学内共同研究として桜島映像観測のオンライン配信の運用を開始した。<http://volceye.edu.kagoshima-u.ac.jp/>

2000年には、教育実践研究指導センターの研究プロジェクト「衛星画像のインターネットによる教育利用の開発研究」で進めてきた3次元動画表示システムを東京と鹿児島島のフェアに出展した後、「教育用衛星画像表示提供システムSiPSE」

<http://www-sat.edu.kagoshima-u.ac.jp/sipse/>

として公開するに到った。これは火山地形とガスの植生影響などの研究に役立つとともに、日本の国土の上で展開された様々な歴史的な事象や文学の道など、新しい視点からの活用が期待される。



鹿児島大学留学生センターの発足と課題

留学生センター長 土田 充義

鹿児島大学留学生センターの看板上掲式が5月12日に行われ、総合情報処理センターの2階の一部を借用しての出発であった。10月に留学生を迎える準備と教官3名の選考を当面の課題としての出舟である。月に2度、大嶋真紀先生と2人の会合をもち、少なくとも1回は留学生課の方に来てもらい、研究室の配置、教室の確保等々の相談事まで含めての会合であった。また、留学生センター運営会議出席の先生方もさぞかし、ご迷惑な議題もあり、時間の労費とも思われたことでしょう。それに月1回の割合です。しかし、センターにとっては大切な会議で、意見を尊重してきたつもりである。

教官選考を終え、10月16日付けで留学生指導担当教官として、小林基記助教授及び大学院入学前の予備教育担当教官として、和田礼子助教授が赴任した。11月1日付で日本語担当教官として、畝田谷桂子助教授が着任した。全員スタッフが揃い、予備教育、日本語研修コースが開講され、留学生とのコミュニケーションが始まった。政府派遣留学生は1名であったが、私費留学生、特別聴講学生を加え、合計10名が分かれて受講している。日本人であれば日本語教育ができるということにはならない。大学あるいは大学院で日本語を学んでいないと難しい。更に一步進めて、留学生センターでは日本語教授法の研究も始まった。一人の先生の講義を他の先生が聴き、その教授法の検討をする。研究心の強い教官達で実に頼もしい。これらの実践が研究論文につながる。留学生センターは理論の積み上げよりは実践に重点をおきたい。更に教材の開発にもとりかかり、より効果を上げる方法を模索し始めている。正に実践教育である。無限に広がる教育に4名の教官は情熱を傾けている。

日本政府は現在でも10万人留学生受け入れを目標にしている。鹿児島大学でもその受け入れ体制を築いていかなければならない。それで、短期留学プログラムの検討を始めた。英語を言語とした講義である。これから日韓共同理工系留学生

の受け入れも視野に入れて歩まなければならない。

更に留学生を中心としたシステムの構築も大きな課題と受けとめている。学内にあっては留学生指導教官との連携。学外にあっては留学生支援グループ又は個人との共同作業。チューターとの協力も欠かせない。どれ一つとっても、しんどい仕事である。でも私達はとりかかりつつある。特に鹿児島大学留学生センターの独自の方針を出すために、国際化シンポジウムを3回に亘って開催し、鹿児島大学がこれまでいかに国際化を進めてきたかをおさらいし、また先達の歩んだ方向を見極め、継承していきたい。

その第1回を12月25日に開催した。留学生センターが担う課題をどの方向で押し進めるか。その進路を第3回目のシンポジウムで提案することを目標としている。私達の任務を果たすと同時に学内の教官、学外の皆さんと手を握って互いに協力し合い、留学生を育て、国際貢献の一端を担うつもりである。また、世界とのコミュニケーションができる大学を目指して歩もうとしている。



留学生センターの教官達(右より、大嶋、小林、和田、土田、畝田谷)

留学生日記



鹿児島について

教育学部 黄 茉莉

私は黄茉莉と申す中国からの留学生です。昨年10月12日に鹿児島に着いてから、二カ月たちました。「鹿児島についてのご印象は」と聞かれるたびに、脳に浮かんでくるのはいつも美と鹿児島の人々の熱心な顔ぶりです。

田園風景に富んでいる鹿児島は静かできれいな都市です。町を歩いてみると、いたるところに、いろいろな植物が植えてあって、緑がいっぱいです。そして、秋の時、銀杏と紅葉に飾られた鹿児島市は色とりどりでまるで神話の中の世界のように美しいです。

自然に恵まれた鹿児島の市民の方々は純朴で熱心です。来たばかりの時、私はよく迷子になりました。その時、全然顔を知らない方でも、根気よく説明したり、詳しく地図を書いたり、お友達に電話して聞いたり、たいへん熱心に教えてくださいました。外国人の私は、本当に感心して、感謝の気持ちがいっぱいです。

もうすぐ21世紀です。ここで、鹿児島の明るい将来を心よりお祈りします。



心のことば

医学部 レマ・カロリーナ

このぶんしょうを書くにあたり、私はもうすでに三年間鹿児島大学で学んでいるということに再にもんじさせられました。あと一年余りでそつぎょうです。

今までの日本の生活の中で、やはり私にとって日本語が一番むずかしいのもでした。

しかし、さいきん、私は話したり書いたりすることばのほかにもう一つ別のことばを分かるようになった気がします。それは心のことばです。

人間のこころのことば一つだということです。いぜんはかんじなかったこの気持ちをたいせつにしていきたいと思います。そして私のまわりの皆さんにかんしゃしています。

SCS 利用案内のホームページ掲載

SCS事業実施委員会ではSCSの利用促進を図るため、鹿児島大学のホームページ「その他 - 衛星通信大学間ネットワーク(SCS)」に利用案内を掲載しましたのでご覧ください。 URLは、<http://www.kagoshima-u.ac.jp/SCS/index.html> 利用申込書、利用報告書などの諸様式も掲載してありますのでご利用ください。

また、メールでの利用申込書等ファイル(一太郎)を利用される方は下記まで問い合わせください。

問合せ 大学院連合農学研究科総務係 TEL 8792、8793 E-mail rensoume@ugs.agri.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学 Kagoshima University
鹿児島大学は10,000人以上の学生が学ぶ総合大学です。

- マルチメディア・サービス [News]
 - 国際衛星放送 [BBC | CNN] (常時配信、学内のみ)
 - 英語学習システム [ALC Net Academy] (学内のみ)
 - **衛星通信大学間ネットワーク(SCS) (学内のみ)**
 - 遠隔講義、講演会、シンポジウムなど
 - 協賛会議 [ライブ中継]
- ネットワーク・サービス
 - 鹿児島のリンク集など
 - 鹿児島大学生協
- 投稿メール掲示板 (学内のみ)
 - www.kagoshima-u.ac.jp宛のメールのうち

鹿児島大学

SCS

スペース・コラボレーション・システム
・ 衛星通信大学間ネットワーク

大学等での主な利用法
大学等間での相互授業・合同ゼミ
・ シンポジウム・研究会・研究会
・ 研究打ち合わせ等各種会議に利用できます。

利用案内

利用案内

鹿児島大学は国際「地球衛星」も鹿児島大学は衛星「地球衛星」の利用情報「地球衛星」

鹿児島大学は国際「地球衛星」も鹿児島大学は衛星「地球衛星」の利用情報「地球衛星」

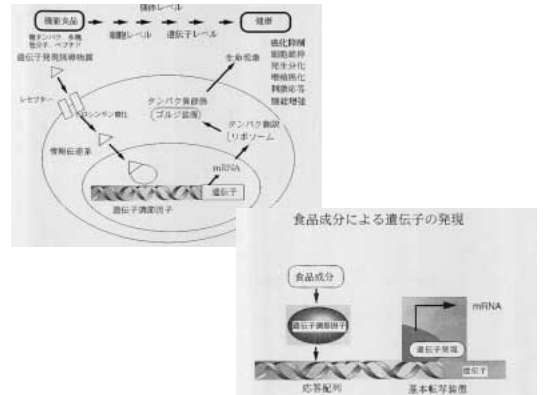
研究室紹介

「食と健康」の解明をめざして

農学部 食品機能化学講座

教授 藤井 信、助教授 侯 徳興、助手 井上 祐一

食品は多様な成分、形態、構造を持ち、それらに対応した多くの機能を持っている。その機能は一次機能（栄養）、二次機能（嗜好）と三次機能（生体機能調節）の3つであり、最近注目されているのは食品の生体機能調節機能である。私どもは地域に根づいた「経験的な健康食品」、また「医食同源」および「食品成分は外的遺伝子発現調節因子の一つである」との発想の基に、食品・食材成分の効果を動物実験で検証し、どのように生体機能調節に働いているかを生体・細胞・遺伝子レベルで研究し、それらの信号伝達経路および遺伝子制御機構を解明することによって、「食と健康」への貢献をめざしている。最近の主な研究テーマは、1) 生体防御能を亢進する食品の検索および機能解析：ワカメなどの海藻多糖類、水溶性キトサンおよび鹿児島黒酢などを中心とし、ナチュラルキラーなどの生体防御能を高く維持する食品成分の検索および機能解析を行っている。また、アラビノースなどの難消化性糖による高血糖・肥満防止の研究も行っている。2) 抗腫瘍・抗酸化食材の開発およびその遺伝子制御機構の解析：紫イモ、ブルーベリーなどのアントシアニン、ワサビ、ウコンおよびカルノシンなどの抗酸化、抗がんプロモーションとがん細胞のアポトーシス誘導作用の検索およびその遺伝子制御機構の解析を行っている。



以上の研究は、地域企業と国内外の研究者との連携の元で遂行していることを付け加えて感謝の意を表す。

責任ある漁業技術にむけて

水産学部 漁業基礎工学講座 松岡 達郎

合言葉は、神経一本から国際問題まで、生理学から計測・制御工学まで。目指すところは、合理的・持続的な責任ある漁業である。その基礎を支えるために、水産生物の感覚・行動に関する生理学的研究や、水中の網・網の形状やそれらに働く力に関する流体力学的研究、各種測器の基礎をなす電磁波の伝播に関する電気工学的研究などを行っている。これらを基礎に、水中での生物の行動制御、漁具の水中形状やその制御、生物の対漁具行動、漁業が資源・環境に与える影響の評価など、現代の漁業が抱える問題を解決するための応用的研究が展開される。さらに、水産資源環境管理に向けた国際条約などの科学的根拠の評価や勧告まで行う。

日本の漁業生産量の低下、生物資源や海洋環境の劣化などが語られ、水産業に対する逆風が吹いているかに見える。しかし、産業が順調に推移している時代よりも、困難に直面している時代こそ、大学教育・研究の必要性は高く、水産学部に所属する講座として、今こそ我々の踏ん張りどころだと、上のような幅広い分野の教育研究に取り組んでいる。

我々はいつもクロス・ロードという言葉を考える。水産学の十字路である。我々の講座には、日本人学部生、大学院生や留学生ばかりでなく、JICAや海外漁業協力財団と連係した研修事業に世界各国から参加してくる若者、国際協同研究事業でフィリピン大学から訪れる研究者など、世界の隅々から水産学関係者が訪れる。外国人ばかりでなく、海外での活躍の合間に帰国した、青年協力隊員や技術専門家、国際協力関係者なども行き交う。時に実験室で、時に漁船の上で、時に水中にまで一緒に潜りながら、この講座を通して交流する。世界のどこかで漁業関係者が集まれば、お互いに鹿大水産学部漁業基礎工学にいたことがあるんだと確認し合えるような、そんな講座であり続けたいといつも願っている。



寄附講座 京セラ経営学講座の紹介

本講座は、平成12年4月に京セラ(株)の寄附により、工学部に新設された寄附講座です。寄附金の運用益を講座運営費とし永続的運営を行います。このように永続的運営を目指す寄附講座は全国では初めての試みとなります。

メンバーは、宮廻甫允教授（法文学部と併任）、大前慶和助教授（法文学部と併任）、石原田秀一助手、齊藤美智代事務補佐員の4名です。

設置目的は「ベンチャービジネスという観点から、科学技術と技術者倫理、社会経済システムに関するセンスを併せもったリーダー・積極性を有する人材の養成を目指す」ことであり、更に教育上の目的として、

- ・企業経営、技術移転、ベンチャービジネス等に関する教育を通じ、積極性、主体性、倫理意識、創造性、責任感のある人材を養成する。
- ・起業に挑戦し地域経済や社会に貢献するとともに将来の日本を担う企業家を生み出すことを目指す。
- ・京セラ、DDI等を興こし世界的企業に育て上げた稲森氏の経営哲学や京セラの経営方式を教育内容に取り込む。

また、研究上の目的として、

- ・起業家を育成するための方法論やノウハウを蓄積して新しい教育システムを開発するとともに、起業家育成のための社会経済システムに関する実証的な研究を行う。
- ・起業後の企業を成長・持続させるための経営手法、京セラの経営方式（アメーバ経営等）などの実践的経営学について研究する。
- ・本学の地域共同研究センター、工学部、SVBL（設置計画中）、企業、県、国などの関連組織相互の利活用や相補的連携の強化や技術移転の推進方法などについて実践的に研究する。

を掲げております。

これらの目的を達成するために、学内外の講師に依頼し、ベンチャービジネス論、企業経営論、実践企業論を実施します。さらに、我々は起業家精神を養っていくためには、少数精鋭でビジネス感覚を身につけていく必要があると考えておりますので、

- ・社会人と学生の討論会
- ・学生同士のビジネスアイデア交換会
- ・ソフトウェアを用いた経営疑似体験会などの勉強会を実施することにより、リーダーシップを有する人材の育成を目指します。

これらの試みにスタッフ一同、精一杯取り組んで参りますので、今後とも、よろしくお願い致します。

また、本講座に関して、より詳しい情報は、<http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/users/kyocera/>でご覧になれます。



サークル 紹介

ジャズバンド部

ジャズバンド部の魅力

教育学部 駒路 典子

私達の部では、毎週ジャズの演奏を練習しています。部員の数は現在37名程で、その中の15名くらいでビッグバンドを構成して練習しています。部員も歯、工、教育、水産など様々な学部の人が出て、とてもおもしろいです。みんな、ジャズに興味があったり、音楽がやりたいという人達なので、楽しんで演奏しています。今まで楽器に触ったことがないという人も多いのですが、一生懸命練習して上達しています。

また、部の活動内容には、じつに色々な行事が盛り込まれています。夏と冬にライブを行うほか、合宿や花見などもします。学祭でも期間中ライブを行い、大いに盛りあがります。それから、年に一回他の九州内の大学のジャズバンド部と一緒に、演奏会を開きます。

このように、年間を通じて様々な活動があり、その中でジャズという音楽をすることで色々な人達と交流ができるところが、私達の部の魅力の一つだと思います。



サッカー部

教育学部 榮 寛人

我が鹿児島大学学友会サッカー部は、先に行われた九州大学サッカーリーグで屈辱的な結果に終わりました。それ以後、借りを返すべく、チーム一丸となり個々のレベルアップとチーム力向上を目指し頑張ってきました。

限られた時間の中で、いかに自分とサッカーの質を高めていかに目標を定め、全員が一つの目標、一つの理解の上に、目的達成のために常に戦っていきたくて考えている方を求めています。

興味のある方は、教育学部グラウンドにて午後4時から練習しているので見学にきてください。初心者の方も大歓迎です。

チーム連絡先

090 - 2960 - 2693

榮 寛人



剣道部

教育学部 南田 龍一郎

汗がほほから滝のように流れ落ちる日も足の裏が寒さでひびわれてしまうような日も私達剣道部は毎日一心不乱に稽古にうち込んでいます。その成果が昨年12月3日に行われた全九州インカレで3位という形になってあらわれました。昨年1年は各大会でよい結果を残せず、部員全員悔しい思いをしてきました。

その悔しさを胸に幹部交替をして新体制になって一から出直しました。剣道とは人間形成の道であり、ただ単に勝敗を決めるのではありません。大学で剣道をするにあたっては技術や技能を磨いていくだけではなく心の方も磨いていかなければならないと考えています。そして礼儀を重んじ、しっかりとした人間になり今後の人生につなげていけるように道場で汗を流していきたいと思っています。



石笑会

落語のサークルではありません！！

農学部 西木戸 優子

私達、裏千家茶道同好会石笑会は、毎週月、土曜日に学生会館三階の和室四、五号室でお茶のお稽古をしています。よく、落語のサークルと間違えられるのですが、「石笑会」というのは、冷たい石さえも、思わず笑わせてしまうような、楽しいサークルにしたいという思いが込められているのです。そんな名前にふさわしく、和室にみんなで集まって、お茶とお菓子を味わいながら過ごす一時は、言い表わすことのできないほど、幸せで心が癒される時間です。

もちろん、年二回の公のお茶会、その他いろいろな年中行事のお茶会に向けて、一生懸命お点前を練習しています。お茶会では、手造りの趣向でお客様をおもてなしするために部員総出で竹と格闘しています。力持ちの人大歓迎です。

今年はかわいい新入部員がたくさん入ってサークルが一気に華やかになりました。どうぞ、お気軽に遊びに来て下さい。



新任教官紹介



職 名 助教授
氏 名 ^{こばやし}小林 ^{もとき}基起
(留学生センター)
生年月日 昭和21年9月28日
最終学歴 早稲田大学文学部
中国文学専攻

前 職 神奈川県立新城高校教諭

担当科目 留学生指導

【抱負】

留学生の増加が学内及び地域の活性化を促し、真の多文化共生が実現されるよう努力したい。



職 名 助教授
氏 名 ^{うねだ やけいこ}畝田谷桂子
(留学生センター)
学 位 国際学修士
生年月日 昭和32年4月12日
最終学歴 筑波大学大学院
地域研究研究科日本研究

前 職 金沢大学工学部講師

担当科目 日本語研修コース日本語、日本語一般コース中級会話

【抱負】

先生方、事務の方、留学生、日本人学生と力を合わせて素晴らしい留学生センターを作っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



職 名 助教授
氏 名 ^{わだ れいこ}和田 礼子
(留学生センター)
学 位 修士(文学)
生年月日 昭和40年2月4日
最終学歴 熊本県立大学大学院文学
研究科日本語日本文学専攻

担当科目 日本語

【抱負】

まだわからないことだらけで事務の方、先生方に大変お世話になっています。留学生センターを支える柱の一本になれる様頑張ります。



職 名 講師
氏 名 ^{うめだ ひろあき}桶田 洋明
(教育学部美術科)
学 位 修士(芸術学)
生年月日 昭和42年12月29日
最終学歴 筑波大学大学院修士課程
芸術研究科修了

前 職 長野県立軽井沢高等学校教諭

担当科目 美術科指導法、絵画制作研究、素描実習、油彩実習

【抱負】

美術教育の発展に貢献するとともに、今まで以上に制作や研究に取り組み、絵画の新しい方向を探っていきたいと思います。



職 名 教授
氏 名 ^{みやた あつろう} 宮田 篤郎
(医学部医学科)
学 位 医学博士
生年月日 昭和31年5月6日
最終学歴 宮崎医科大学大学院
医学研究科博士課程

前 職 国立循環器病センター研究所
生化学部体液性調節研究室長
担当科目 薬理学

【抱負】

21世紀の医学・医療を目指す鹿児島大学の益々の発展に、薬理学教育また医学研究を通して、微力ながら貢献できればと思います。



職 名 講師
氏 名 ^{はなしろ いさお} 花城 勲
(農学部生物資源化学科)
学 位 博士(農学)
生年月日 昭和44年11月22日
最終学歴 鹿児島大学大学院連合農学研究科
生物資源利用科学専攻

前 職 米国インディアナ大学医学部博士研究員
担当科目 生体高分子学特論(院・予定)

【抱負】

大きな変革の中で、微力ながらも本学の一員として何かしらの貢献が出来ればと思っています。御指導宜しくお願い致します。



職 名 講師
氏 名 ^{こばし けんじ} 小橋 謙史
(農学部生物生産学科)
学 位 博士(農学)
生年月日 昭和46年6月7日
最終学歴 筑波大学大学院
博士課程農学研究科

前 職 日本学術振興会特別研究員(筑波大学)
担当科目 生命科学基礎、欧文演習、卒業論文

【抱負】

研究・教育ともに、鹿児島の農業に貢献できるよう頑張りたいと思います。



職 名 助教授
氏 名 ^{かわい けい} 河合 渓
(多島圏研究センター)
学 位 博士(水産)
生年月日 昭和38年6月26日
最終学歴 北海道大学大学院水産学
研究科後期博士課程

担当科目 南太平洋多島域：小島嶼の生活と環境(教養科目)

【抱負】

新たな環境に早く慣れ、頑張っていきたいと思っています。

よろしくお願ひいたします。

保 健



神経症（ノイローゼ）

保健管理センター助教授 森岡 洋史

神経症という用語は、精神医学の領域では最近用いない傾向にあります。ドイツ語でノイローゼと言えば、我々もまだよく使うので、皆さんも耳にしたことがあると思います。

神経症は、素質と環境因子の関係で発症します。神経症になり易い素質としては、几帳面で完全癖が強く柔軟性に欠ける強迫性格、神経過敏性格や自信欠乏性格、あるいは、目立ちたがり屋といった演技性性格などが挙げられます。一方、環境因子としては、夫婦や親子関係、職場での対人関係、あるいは、金銭問題などがあります。これらが互いに作用すると、不安、欲求不満、葛藤などが生じますが、それがうまく処理できないと神経症が発症するのです。普通は、いろいろな防衛機制を働かせて発病に至らないようにしています。例えば、合理化、これは自分の失敗を他人のせいにしたりする防衛機制です。嫌いな上司の持ち物を誰も見ていないときにボカッと蹴るとスカッとしますね、これは置き換え。女性にもてない男性がその性的エネルギーをスポーツに振り向けて成功するのは、昇華といえます。このような防衛機制でもって、うまくストレスからのがれられなくなると神経症が発症するのです。

さて、神経症の種類ですが、古典的な分類法で示すと、それは8つに分けられます。動悸、呼吸困難、胸内苦悶などといった不安発作を示す不安神経症、洗っても洗っても手にバイ菌がついている気がして手洗いを繰り返したり、車のナンバープレートを見ると足し算をしないと気が済まないなどといった強迫現象がみられる強迫神経症、高所恐怖や閉所恐怖または対人恐怖などの恐怖症、些細な身体の不調を重大な兆候と思ひ込み、医療機関を転々とする心気症、自己自身や自

分の身体を今までと違ったように感じたり、外界がベールに包まれたようでピンとこないなどを感じる離人神経症、くよくよ悩むことによりうつ状態に陥ってしまう抑うつ神経症、心理的葛藤が、手足の麻痺や感覚消失を引き起こしたり、あるいは、自分の名前や生い立ちなど生活史をすっかり忘れてしまう状態になるヒステリー、そして、疲労感や不機嫌状態が長く続く神経衰弱の8つです。いずれも、普通の人から少なからず経験したことがある症状が、肥大化し、日常生活に大きく支障を来す状態になったものを神経症と呼びます。普通の人からの経験から症状が了解できるところが精神病と違うところで、したがって正常との境界がハッキリしないという特徴もあります。

治療は、精神療法が主となりますが、不安や緊張をとり除くのに、抗不安薬や抗うつ薬が使われるのが一般的です。精神療法には、前述の神経症の種類によって、行動療法、交流分析、自律訓練法、また、認知療法や精神分析療法などの技法が使い分けられます。いずれの方法も、治療者が相手に共感を示して支持し、話をよく聞いて悩みや葛藤を表現させ、最後は、洞察へと導き、社会で適応して行けるように訓練をするのが基本です。

神経症は、こうして適切な治療を受け、原因となった情動体験をうまく処理できれば、原則的には後遺症を残さずに完全によくなる病態です。



図書館だより

学内だより

文献情報検索 (ERL_WebSPIRS) 画面から蔵書検索 (OPAC) へ !

そして、オンラインジャーナルへ !

文献情報検索 (ERL_WebSPIRS) の検索結果 (詳細画面) の各レコード末尾にあるリンクボタン (Check for holdings) をクリックすると、自動的に論文掲載誌の蔵書検索 (OPAC) が実行されます。

さらに、蔵書検索 (OPAC) で表示された書誌情報に「電子ジャーナル ::= link to online journal」の表示のある雑誌は、この表示をクリックすると、オンラインジャーナル・サイトに接続されて、原論文が閲覧できます。

是非、一度お試しください。



* 問い合わせ先

附属図書館情報サービス課参考調査係 (内線7440・7441) E-mail:sanko@lib.kagoshima-u.ac.jp

桜ヶ丘分館情報サービス係 (内線5205・5206) E-mail:sakura@lib.kagoshima-u.ac.jp

水産学部分館 図書係 (内線4051・4052) E-mail:suisan@lib.kagoshima-u.ac.jp

WebSPIRS - Microsoft Internet Explorer

Databases in use: [Click here for database information.]

Find: brain in so and picard in au

Records: 1 to 1 of 1
Search: (brain in so) and (picard in au)

Record 1 of 1 in MEDLINE EXPRESS (R) 2000/01-2000/10
TI: Dominant partial epilepsies. A clinical, electrophysiological and genetic study of 19 European families.
AU: Picard-F; Baulac-S; Kahane-P; Hirsch-E; Sebastianelli-R; Thomas-P; Vigevano-F; Genton-P; Guerrini-R; Gericke-CA; An-I; Rudolf-G; Herman-A; Brice-A; Marescaux-C; LeGuern-E
SO: Brain, 2000 Jun, 123 (Pt 6): 1247-62.
ISSN: 0006-8950
LA: ENGLISH
AN: 20340258
[Check for holdings](#)

雑誌所蔵情報 -
GMD: TLL: eng TXTL: eng
NCID: AA00573228 ISSN: 00068950
誌名: Brain: a journal of neurology
巻次年月次: Vol. 1, [no. 1] (Apr. 1878)-
出版事項: London: [Butterworths Scientific Publications]
その他の標題: AB:Brain
KT:Brain
注記: Published: London: Butterworths Scientific Publications, 1878-<; London: Macmillan, 1950-<; Oxford: Clarendon Press, 1979-<(1986); Oxford: Oxford University Press,
電子ジャーナル => link to online journal

所蔵情報 -
所在: 医学-内科学3
所蔵年次: 1999-2000

Brain - Microsoft Internet Explorer

BRAIN
A journal of neurology
OXFORD Journals online

New Impact Factor - 7.374

View Current Issue
December 2000
The next issue is scheduled for online publication on: December 19

100 Years of Brain
free sample issue

Search for Articles
Browse the Archive
Email notification of TOCs

Other Oxford University Press journals that may be of interest:
Cerebral Cortex | Chemical Senses | Clinical Psychology Science and Practice | The EMBO Journal | Harvard Review of Psychiatry
Human Molecular Genetics | Journal of Pediatric Psychology | Neurocase | Nucleic Acids Research | QJM

Brain - Picard et al. 123 (6): 1247 - Microsoft Internet Explorer

BRAIN
A journal of neurology
OXFORD Journals online

HOME | HELP | FEEDBACK | SUBSCRIPTIONS | ARCHIVE | SEARCH | TABLE OF CONTENTS
Institution: KAGOSHIMA UNIVERSITY SAKURAGAOKA LIBRARY | Sign In as Personal Subscriber | Contact Subscription Administrator at this Site | FAQ

Brain, Vol. 123, No. 6, 1247-1262, June 2000
© 2000 Oxford University Press

Dominant partial epilepsies
A clinical, electrophysiological and genetic study of 19 European families

F. Picard^{1,6,7}, S. Baulac^{2,8}, P. Kahane³, E. Hirsch¹, R. Sebastianelli⁷, P. Thomas⁴, F. Vigevano⁷, P. Genton⁵, R. Guerrini⁵, C. A. Gericke¹, I. An², G. Rudolf¹, A. Herman², A. Brice², C. Marescaux¹ and E. LeGuern²

[Abstract of this Article](#)
[Reprint \(PDF\) Version of this Article](#)
Similar articles found in:
Brain Online
PubMed
PubMed Citation
Search Medline for articles by:
Picard, F. | LeGuern, E.
Alert me when new articles cite this article
[Download to Citation Manager](#)

¹ INSERM U 398, Clinique Neurologique, Strasbourg, ² INSERM U 289, Hôpital de la Salpêtrière, Paris, ³ Neurophysiopathologie de l'Epilepsie, Clinique Neurologique, Grenoble, ⁴ Service de Neurologie, Hôpital Pasteur, Nice, ⁵ Centre Saint Paul, Marseille, France, ⁶ Département de Neurologie, Hôpital Universitaire de

行事 schedule 予定

2月

2月25日 個別学力検査(一般選抜)前期日程
26日 "

3月

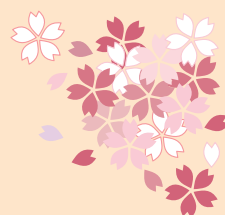
3月3日 全学合同研究プロジェクト「大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行」の平成12年度研究成果報告
7日 前期日程合格発表
12日 個別学力検査(一般選抜)後期日程
13日 "
14日 連合農学研究科学位記授与式
22日 後期日程合格発表
23日 卒業式(於:県体育館)

4月

4月4日 入学式(於:県体育館)
5日 新入生オリエンテーション
13日 連合農学研究科入学式

6月

6月7日 第36回国立大学歯学部長・第34回国立大学歯学部附属病院院長合同会議
8日 "



編集後記

鹿大広報第155号を、特別の感慨をもって皆様にお届けいたします。特集のテーマを「新しい世紀へ」とした本号は、30余年におよぶ本誌の長い歴史に、また21世紀の新しい歴史を刻む第1号となるものです。

新世紀の幕開けとともに鹿児島大学をご卒業・修了またはご退官される方々が本号にお寄せくださった文章には、新たな期待と希望を抱いて新しい世紀へ羽ばたこうとするそれぞれの思いが躍動しているように感じられます。いま鹿児島大学を旅立つ方々に、幸多かれと切に祈ります。

昨年7月、初めて開催された鹿児島大学運営諮問会議の石窪奈穂美委員から、特別寄稿をいただきました。新しい鹿児島大学のあり方についてご指摘いただいたご意見の内容とともに、本号にこれまででない新鮮さを吹き込んでいただけたのではないかと思います。

また、田中学長には大変ご多忙のところ、二つの原稿をお寄せいただきました。「21世紀を迎えて」は、今年1月11日に開催された評議会で、年頭のご挨拶として述べられた内容の一部を改編したものです。このご挨拶は、インターネットをとおして全学にライブ中継され、新しい時代の鹿児島大学の広報のあり方を印象づけることになりました。

「学内だより」を豊かに彩っていただいた各原稿の執筆者の方々、また新世紀への期待と希望を表紙にデザインしていただいた教育学部の小江先生にも、心から感謝します。ご多忙の中、編集委員会の依頼を快くお引き受けいただきありがとうございました。

広報編集委員会委員長 坂東義雄

鹿大広報 第155号 平成13年2月20日発行
編集・発行 鹿児島大学広報委員会

本誌に関するご意見・ご感想を下記までお知らせください。
住所: 〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号
電話 099-285-7025 FAX 099-285-7034